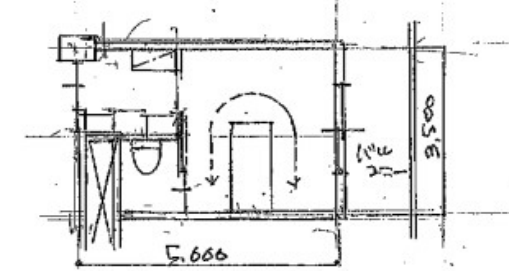


建築計画、構造計画及び設備計画について、次の(1)～(8)の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない事項についても記述する。また、(1)、(3)及び(5)については、必ず【イメージ図記入欄】に、平面図、断面図、イラスト等により当該計画に対する考え方を示したうえで、当該要点等を記述する。

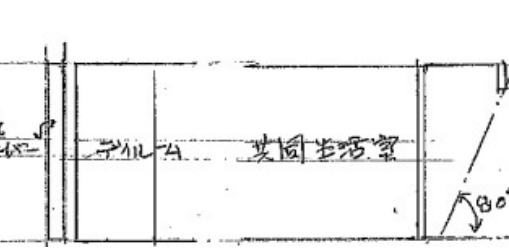
(1) 居住部門の個室の計画において、「入居者の住みやすさ」及び「介護のしやすさ」について考慮したこと

<p>【イメージ図記入欄 (必ず記入すること)】</p> 	<p>1. 高齢者介護施設なので、車椅子による移動が考えられるので、介護を考え住戸の間口を3.5mとした。</p> <p>2. 日照と通風に配慮し、南側の窓の高さを2.4m程度の大きさを確保した。</p> <p>3. ベッド廻りの介護を3方向確保した。</p>
--	--

(2) 居住部門及び居宅サービス部門のスタッフルーム等介護に必要な諸室の配置について考慮したこと

<p>居住部門及び居宅サービス部門のスタッフルームは、E.V.に近接させ、それぞれのユニットケアの玄関へ案内できるようにした。</p>

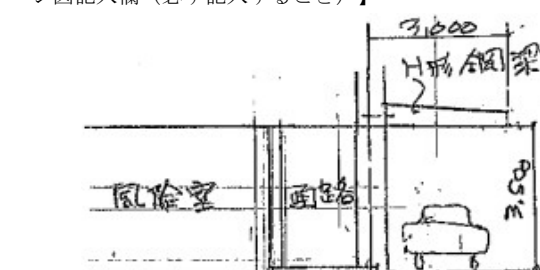
(3) 共同生活室及びダイルームについて、自然光を取り込みつつ、冷房時の負荷抑制を図るために、建築計画において工夫したこと (Low-Eガラスを使用する工夫を除く。)

<p>【イメージ図記入欄 (必ず記入すること)】</p> 	<p>夏の南中時の太陽高度は約80°と高いので、窓を壁面より2.0mバックさせて、窓部分への直射日光を防いだ。</p>
--	---

(4) 建築物の構造計画について、建築物の特性に応じて採用した構造種別・耐震計算ルートとそれらを採用するに当たり、耐震性を確保するために考慮したこと

<p>耐火性、耐久性の高い鉄筋コンクリート構造とし、剛性率、偏心率の規定を満足させ、X、Y両方向とも架構重視のラーメン構造とした。耐震計算ルートは 2 とした。</p>
--

(5) 車寄せの屋根・庇等となる部分の寸法、有効高さ及び車寄せの屋根・庇等の構造計画 (各種寸法、部材の材質、支持方法及び耐震性等) について考慮したこと

<p>【イメージ図記入欄 (必ず記入すること)】</p> 	<p>RC造の柱より3mの片持梁を設け、屋根は折板で構成した。片持梁はH形鋼を柱に埋込み、アンカーとし、強度を確保した。</p>
--	--

(6) 地盤条件や経済性を踏まえた支持層の考え方、採用した基礎構造とその基礎底面のレベルについて考慮したこと

<p>梁成2000mmのべた基礎としたが、部分的に埋め戻しがあるので、地盤耐力を梁の接する部分と同様にするため、下部2000mmはラップルコンクリートを打ち込ませて地盤耐力を補強した。</p>
--

(7) インフルエンザやノロウイルスへの対策について、建築計画や設備計画において考慮したこと

<p>共同生活室の玄関に消毒液を備えて、手洗い場を設けた。</p> <p>個室については、廊下やホールからの空気は遮断し、室内を正圧とする全熱交換器を使用した。</p> <p>一般の部屋は、マルチエアコンを使い、それぞれの空間ごとに空調を行う計画とした。</p>

(8) 高齢者介護施設としての空調方式について、採用した空調方式とその理由

<p>空冷ヒートポンプ方式による個別空調方式とした室外機を屋上に設置し、各々に複数の室内機を天井に配置し冷媒による冷暖房を行う。換気は全熱交換器で行い、個別に各室の範囲とした。</p>
--